

Only R-18 『メダリ〇ト』本



2nd spin

教室経営を
助けるための『かんたんなお仕事』

前回までのあらすじ

フィギュアスケート教室に通う少女、祈。

純粹かつ、無知な彼女は

『教会と経営を助けるため』という

大人の口車を鵜呑みにし、

見知らぬ男に身を委ねることだ。

最初は忌避感のみの肉体的接触だった。が、男の手練手管に次第に、自分の中の肉欲を刺激され、性に溺れていく……。

純血すら男に捧げるも、むしろ、自分から積極的に身を委ねさえするようになった祈は、淫靡かつ退廃的な性の宴に没頭していくのだった。

今日も今日とて
フィギュアスケートの
練習に邁進する祈ごと
『結束いのり』。

スルスルとリンクの上で
技を決め、見ているものを魅了する。



かつては自身の意見を
言うことすらままならない
おとなしい性格の祈だったが、
最近は大膽になり、

大人も、他の選手も
一目置くようになった。
一置くようになった。



しかし、彼女をよく知る
担当コーチは、
今の彼女に違和感を抱いた。

ハイ

『なにか悩み事でも?』
というコーチの質問に
析は
「な、なにでもないですっ」と
あからさまな反応。

ハイ

明らかに何かを隠している
彼女に、コーチは怪訝な表情を
浮かべるが、しかし
聞いたですのようなマネを彼はしない。

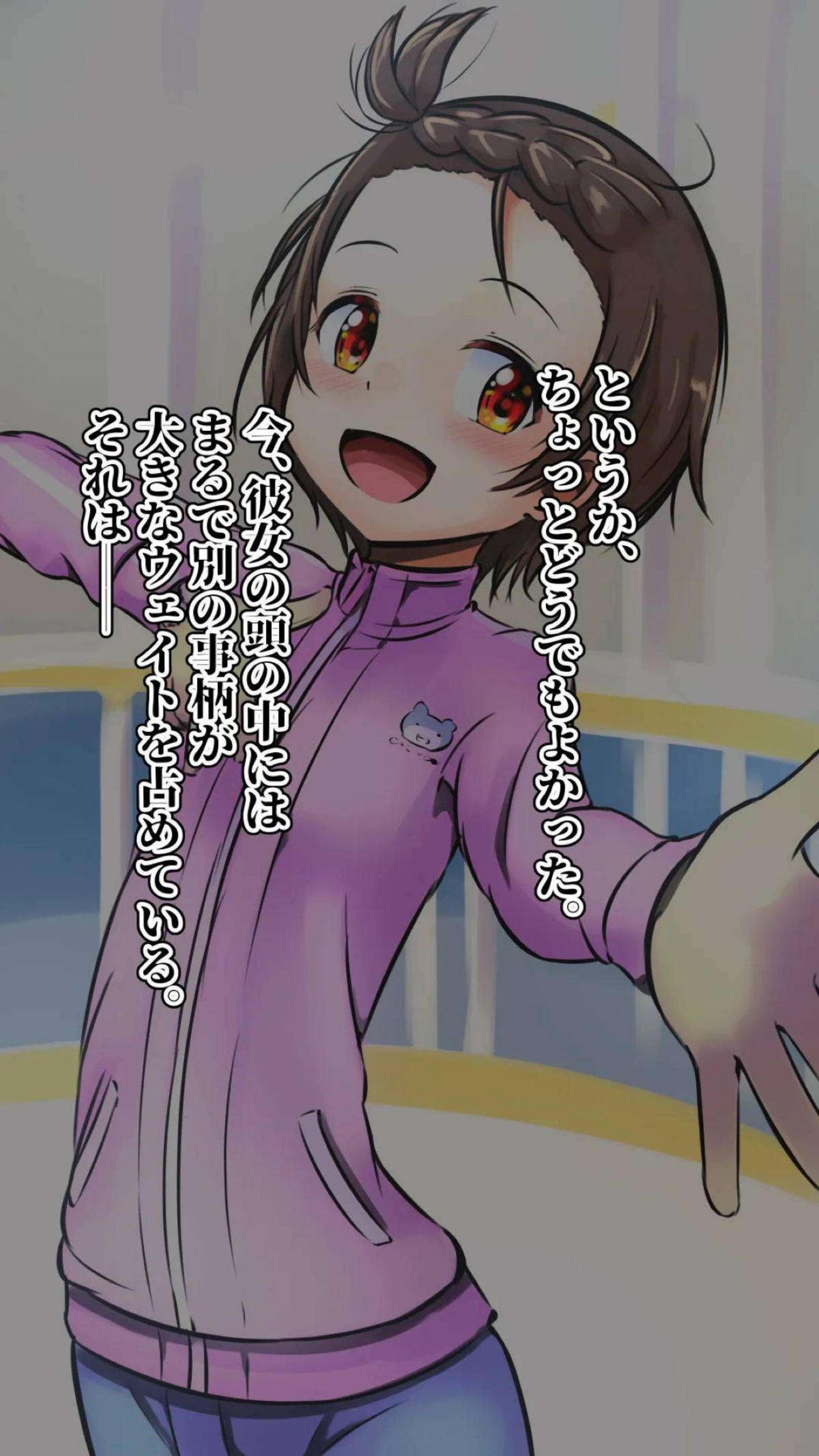
ざわ

『なにかあったら相談してね』と
優しい笑顔で祈に言う、が
当の祈は、それを嬉しく思いつつも
どこか、人ごとのように感じていた。

ざわ

というか、
ちよっとさうでもよかった。

今、彼女の頭の中には
まるで別の事柄が
大きなウエイトを占めている。
それは――



「んじゅっ♡んっ♡んんっ♡
はぶっ♡んぷ……ちゅ、ちゅううっ♡」

んじゅっ♡

んじゅっ♡

んじゅっ♡

んじゅっ♡

析が通うアイススケート場。
その地下に密かに建造されている
謎の憩いの場。

薄暗くどこか獣じみた匂いの
充滿するその空間で
祈は今日も男の性器を咥えていた。

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ズン

「はぷっ♡んっ……♡ツ♡
ん♡ん♡ん♡♡はあむ♡ん♡む♡
レロレロレロ……おおっ♡」

ズン

夢中な様子で
自分よりふたまわりは
年上の男性の股間に顔を埋め、
舌と唇、口全体を使って性奉仕する。

「おほ…ツ、これは…っ♡
祈ちゃん…っ、ちんぽしゃぶりが
上手になったねえ♡」

肉茎しゃぶりに余念がない祈に
当のちんぽ保持者である男は
満足そうに背中を震わせる。

「んっ♡んっ♡んあ〜……っ♡」
見せつけるように亀頭を舐め回し
挑発的な動きで舌を肉槍にからませる。

フィギュアスケートの練習で
火照った身体は体温が高く
小さな音から、肉茎に粘膜を
伝って、その熱が伝播するようだ。

「じゅぞツ♡じゅぞツ♡
じゅぼツ、ぞぞぞツ♡♡♡
「い、祈ちゃん…っ、祈ちゃんッ」

あまりにも熱の入った
口奉仕に、むしる男は
追い詰められたように声を出す。

「ふえあ…ツ、なんれすかあ……」
熱に浮かされたような瞳で
男を見上げる祈。
その間も、チロチロと
尿道口を舌先で舐め、刺激する。

「ちよ、ちよっとペースが
早いかな……。このままじゃ、
すぐに出してしまおうよ」

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

こういう行為に慣れているはずの男は
しかし、祈の熱烈なフェラに
あっという間に迫り込まれてしまっていた。

「あ…、そうですね…。
えへへごめんなさい♡
そう言いながらも、祈は
くぽっ♡くぽっ♡亀頭を吸う。

ちゅるっ♡
ちゅるっ♡
ちゅるっ♡

かみほ

はちゅる♡

「ちよ、ちよッ！
ほ、ほんとに出るからッ！
余裕のない男の叫びに
祈はしかし、フェラの手を
緩めない。

ちゅるっ♡

はちゅる♡

ふあああ……♡
ちんぽ、おいしっ♡おいしい♡
男の人の、コレ……ずるいよお♡

イク

イク

イク

もはや、自身の肉欲に正直になった
析は、恥じらいやためらいなどなく、
ただただ、己の欲するままに
男の性器をいじめて楽しんですらいる。

イク

「ぎゅぽっ♡ぎゅじゅじゅじゅっ…♡
ああむ♡あむ♡はあ♡れろれろ♡
だ、出さないんですか？このまま♡」

♡お♡
♡お♡
♡お♡

イクッ♡
♡お♡

♡お♡

キツく肉茎を吸い、絞り上げながら
祈は男に尋ねた。
どこか、調子にのったニユアンスを
感じなくもない、その言葉に――

「このガキッ！
図に乗りやがって!!」
ブチユウユウユウユウ♡♡♡

バースト

チユ♡

ああ♡

いよいよ追い詰められ、
精神的にも余裕のなくなった
ブ男は、一転反撃に出る♡

身体の奥まで突き立てられる♡

チキ

ちや

名

14

41...

A stylized illustration of a hand with a pink heart on the palm, surrounded by falling rain. The hand is rendered in a soft, painterly style with a pinkish-red hue. The palm features a prominent, glowing pink heart. Several white raindrops are depicted falling from the top of the frame, creating a sense of movement and atmosphere. The background is a deep, dark blue, which makes the hand and the raindrops stand out. The overall composition is vertical and evokes a sense of gentle care and protection.

男の性器をしゃぶりたてる行為で
すでに身体は準備を完了しており、
膣口からは、透明な愛液が
トロトロと流れ出ていた。

「くっ……こっちも
アツい……っ」
すでに余裕のない男は、
析のナカの熱さ、狭さに
歯を食いしばった。

愛液にみちみちた内部は
ヒタ感も強く、ぎゅぎゅと
内部に入ってきた男根を歓迎する。



「くぁ…す、

吸い上げられる…ッ」

ペニスから粘液を

絞り上げるように、腔内部は蠢く。

ズン

あああ

ズン

ズン

回転してすらいいるのではと
疑いたくなるほど、
肉茎に腔はからみつき、
ギョッギョと締め上げてくる。

はあ

はあ

ズン

「くそッ、くそ…ッ♡」
負けじと男は、亀頭を
狭い腔道の奥まで入れ込ませ、
反撃を試みる。

「あッ♡あッ♡あ、すい♡
あは♡ズンっ♡ズンっ♡
き、きてます…ッ♡♡♡」

「あ♡

「あ♡

「あ♡

「あ、も、もっと♡
もっとくださいっ♡
おちんちん♡もっとお♡」

祈が言うな否や。
ただでさえ狭い腔道が
ギチギチにペニスを
くねえ込み、しゃぶらあびる。



「おツ、おおっ、ここのガキ……」
つい先日まで、むしろ
祈をリードできていた男は、
しかし、今は祈の性欲に圧倒される。

キエ

と女

キエ

キエ

もはや、

フェラチオで熱を帯びていた

彼の肉茎は、悲鳴を上げるように

射精するほかない。

ズン



「ふえ……?」

も、もう終わりですかあ……?」

祈のどこか不満そうな声に

しかし、ブ男は息も絶え絶えで

「も、もう助弁してくれ……っ
こ、これで4発目なんだぞ……」
降参宣言する。

（そっか？！...）

男の人って、何度もできないんだ...）
言われてみればと
精液の薄さに気づきもする祈。

今の性交でも
絶頂を味あっていた祈。
だが...）

はぁん

お

は

お

お

お

お

お

お

お

お



(あ〜…♡♡

なんか、カラダ、

むらむらする…っ♡♡♡)

「あッ♡あッ♡アハッ♡
きもち、ええですか〜っ♡♡」
薄暗い空間、その奥から
別の少女の喘ぎ声が響く。

見れば、京都の大会で
一緒に舞台で競った少女
『絵馬』が、そこにいた。



パンっ♡パンっ♡パンっ♡
自らその細い腰を落として
太いペニスに腔を打ち付けていく。

チュ

チュ
チュ

ハ

やや離れた位置にいるにもかかわらず、
粘液同士がぶつかり、汁が弾ける音すら
聞こえてきそうな、激しい交合。

「ああ、最近は、有望な子は
地方からでも声をかけているんだ」
祈の疑問に答えるように、
祈の近くで息を整えるブ男が呟いた。

『どこの教室も、
経済的な支援は欲しいからね。
下っ端どもは知らんだろうが』
ぶよぶよとした腹を叩いて揺らし、
ブ男はどこかバカにしたように言う。

男のふてぶてしさを
しかし腹を空でる暇もなく――

「あッ♡あんっ♡あんッ♡
はああ♡きもちいい♡ちんぽ♡
ちんぽ、グチュグチュすんのっ♡
きもちええっ♡♡」
祈はまぐわう絵馬を夢中で眺める。

「はお♡お、おお♡
おおく♡突き上げ…ツ♡
は、そこそこそこ♡そこそこええ♡
ええですっ♡あ♡ああッ♡」

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

チゅ♡

はぁ♡

はぁ♡

下からペニスで突き上げられ、
小さなカラダの最奥部を
乱暴にこねくられる感覚。
それは祈にも容易く想像できる。

「ふアっ♡あ、あッ♡はああっ♡
し、しきゆう♡子宮どつかれんのっ♡
めっちやええっ♡ええですっ♡
もっどもっどイジメてっ♡ちんぽでイジメてえ♡」

肉茎が腔にぶつかるとたびに
狭い入口から、大量の体液が
溢れ出し、弾け飛ぶんでは
キラキラした水滴が弧を描く。

「ほお♡おおおッ♡
おほッ♡おおおッ♡
ちんぽ♡ちんぽええッ♡
オチンチン、ぎもちええッ♡」

ほあ♡

ほあ♡

ほあ♡

ほあ♡

いつかの大会で見た、
おっぴろぎのんびりした
絵馬は、そこにはない。
そこにいるのは――

「あッ♡あがッ♡
あ♡あ♡あ♡はい、はい♡
も、もうダメ♡ダメですっ♡
これ、も……ッ♡わたし、わたし♡♡」

男の性欲をぶつけられ、
しかし、嬉しそうに
どこか楽しげですらある
一匹のメスだった♡





それから数日。
祈は、一日の終わりの
布団の中の目課が激しくなつた。

自分のジユクジユクに
濡れた割れ目に指をつっこみ、
かき回してね、かき乱す。

「んア♡んん…♡ツ♡
んんんん♡♡♡
もっどもっどお…♡♡♡」

は♡

は♡

は♡

は♡

ぬち♡

ち♡

ち♡

乳首をつねり、
膣を刺激し
満たされない性欲を
どうにか解消しようとする。

「あああ♡ずるい、ずるいよお♡
わたしも、わたしもっ♡
もっど、もっどしたい……♡♡♡」

はぁ

はぁ

ぶっ

ガ

ぬち

ぬち

ちゅる

ガ

思い出すのは
先日みかけた絵馬の痴態。
同年代の少女のセックスを
思い出しながら、自慰にふける。

「もっとしたいっ♡もっと♡
おチンポ♡ちんぽ♡
ちんぽでちゅぽちゅぽ♡」

どき

どき

ふっ

どき

ふっ

「ふっといのでズンズン♡
ズンズンされたい♡
お、おおっ♡あ♡ぎもちいい♡
もっと♡ぎもちよく、なりだい♡♡」

おチンポ

どき

どき

男の肉欲に乱されたい♡
太い肉茎を突き立てられ、
子宮をこねくり回され、
脳天まで届く快楽電流を味わいたい♡

「ふおっ♡ほおおっ♡
ちんぽ♡ちんぽお♡エッチなこと♡
エッチしたい♡エッチしたい♡♡」

親に見つかからないように
布団をかぶったまま、
乳房をまさぐり、
女性器をいじめたおす。

はあー



はっ



はっ



はっ



はっ



はっ



はっ



はっ



はっ



「んひっ♡ひゅ♡あ、やっぱ♡
やっぱ♡クリ♡クリいい♡
クリ、ぎゅうう♡するの、
いい♡」

「あああ♡でも、足んないっ♡
足りないよお♡
ちんぽがいいの♡ちんぽ♡
ぜったい♡ちんぽのほおがいいよお♡」

ほ♡ぽ♡

ほ♡

ほ♡

「あああ♡ちんぽされたい♡
おじさんチンポ♡ドチュドチュして♡
セックス♡セックスやばいよお♡
セックスほしい♡ほしい♡♡♡」

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

膣の中で指を開いたり、
中をかきむしったり、
考えられる刺激を
ドロツドロに蕩けた肉壺に与える、が――

「あああ♡だめ♡だめだあ♡
足りない♡たりない♡
ちんぽがいい♡ちんぽがいいもん♡
もっと太いの♡長い♡大きいのがいい♡」



半ペそをかきながら
自分の指で満たされない
性欲を慰める。

我...我

カハル

如痴

「あ♡で、でも、イ……」

イク……♡イけそ♡
い、いく、いく……い、ぐう……ッ♡」





「ああ……、イけたけど……
これじゃ、ぜんぜん……」

「あッ♡あッ♡
ああッ♡はあッ♡」

「あッ♡あッ♡」

「あッ♡あッ♡」

「あッ♡あッ♡」

ぶびゅびゅびゅッ♡
たまらず、いつものフツ男は
射精する。
熱くも狭い祈の腔に
完全に絞られた格好だ。しかし

「ま、まだ出来るもんっ♡
できますよねっ♡
おまんこ、ギュッてしますから♡♡」

ぎゅうううう……♡♡
「くおツ！ お、おおツ♡
ちよ、ちよっと休ませ」

「あはツ♡やった♡
やつぱり、出しても大っきいまま……♡
このまま、タンタン♡しますからツ♡」
「ま、待って」



ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

ちんぽっ

「お、お、おッ♡

ま、まっで、まっで……ッ♡

「あははっ♡ちんぽ楽しい♡

セックス、楽しいですねっ♡」

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

「あ♡あッ♡ああっ♡

ちんちん、グリグリい♡

さきっぽ♡奥でつぶしまあす♡」



「おおおおっ、くっ……」

これ、ちよ、ちよっど……ッ」

「えへへッ♡はあぁ……♡」

ちんちん、イイい……♡いいよお♡」

ほ♡

ほ♡

「あ♡またフクッて♡

おちんちん、ぶくって

太くなりましたよ♡

ね♡もっかい出しましょうね♡」



「や、やめ……もう……」
「だいじょうぶですよっ♡」
またしぼんだら、おまんこで
ギュウ♡しますからっ♡」

「おちんぽ♡おちんぽ♡
中でビュウ♡ビュツびゅうツ♡
こどもオマンコで♡おとな様ちゃんぽ♡
ドピュドピュしましゅうね♡」

「ほおら♡イって♡
イキましよう？♡

ビュウしよ♡イって♡イけっ♡
イけっ♡このままビュッビュウ♡♡」

「いづもオマンコと
—出しちやえ♡♡」



出せ

出せ

出せ

出せ

出せ

出せ

出せ

出せ

出せ

出せ



はあ〜♡

はあ〜♡

「じゃあ、

もっかいしましょうね〜♡♡」

「ひッ……ひひひひッッッ!!」



NextStage 『End Spin』

2025/05

『教室経営を助けるための『かんたんなお仕事』2nd spin』

当作品の無断複製・無断アップロード・無断配布
また、画像の改変や使用等は禁止しております